

振興計画見直し等に係る地域説明会における意見交換

日時	H22.9.30 19:00~20:30
会場	文化センター第2研修室
出席者数	27名(男性20名 女性7名)
質疑の内容< 市長、 質問者 >	<p>【農業振興】</p> <p>将来都市像について、さくらんぼを頑張っていくことは十分理解できるが、さくらんぼの季節は、年間12ヶ月のうち1、2ヶ月だけ。40年後には温暖化で寒河江ではさくらんぼがとれなくなるという話も聞いた。さくらんぼだけでアピールしていくのではなく、12ヶ月アピールできるさくらんぼ以外のものを売り出していく必要があるのではないかと。</p> <p>さくらんぼを将来都市像に入れるのは初めてではない。アンケートの中でも寒河江はさくらんぼを抜きにして寒河江のイメージは語れないという結果で、審議会の議論の中でもさくらんぼをアピールしていくべきだとの声が強かった。40年後は分からないが、今後5年間の計画では頑張っていくべきということ。地域座談会でも、ある市にさくらんぼが負けていると市民の方からよく言われる。審議会でもそのあたりをふまえたと思うが、審議会での検討はまだ続き、決定ではないので、今のような御意見は座談会での御意見として審議会へ報告していく。</p> <p>【雇用、農業振興】</p> <p>P3の参考、市政の満足感で不満が多かった項目に雇用の話がある。その対応はどうか。また、P5の地域資源の活用のところ、特産品の開発、ブランド化とある。農業従事者は高齢化が進んでいることもあり、農産物の販売促進は重要。今後5年間の取組みについて考えをお聞きしたい。</p> <p>雇用の確保は市としても重要な施策として展開していかなければならない。国でも県でも雇用対策に取り組んでいるが、市でも景気の低迷により雇用の打ち切りにあった方を再雇用するなど取り組んでいるが引き続き努力していく。ある程度景気がよくなると雇用は進んでいかない。国でもまた補正予算を予定しており、県・市でもそれを受けて考えていく。工業団地については、今日も倉庫会社と調印したが、1年前と比べ相当動きは出てきており、市にも大きな面積の打診がきている。昨日、今日と、工業団地の主だった企業に来年の高卒者の求人をお願いに行っているが、話を聞くと自動車関連など景気が戻ってきているところもある。食品産業などはまだ回復とはいかず予断を許さないで、景気対策、雇用対策を充実させていかなければならない。</p> <p>特産品の開発、ブランド化については、さくらんぼはもちろんだが、さくらんぼ以外の農産物、特に伝統野菜が見直されているので、小姫芋とか寒河江でしか取れない農産物の生産を確保しそれを売り出していくことが大事なので支援していく。農産物以外にも寒河江の特産品をつくるべく企業の新商</p>

品開発に支援を行っているところ。寒河江には探せばいろいろあるので、それを磨いていくことが重要である。

【高齢者福祉（福祉施設）】

民生委員をしているが、家族と暮らすことができる高齢者は、まだ幸せな境遇にあると言えるが、最近は一入暮らし高齢者が増えてきた。これらの方々の中で、国民年金しか収入の無い人は、厳しい生活の実態にある。少ない年金から税も差し引かれる。こんな人が入れる施設が必要でないか。特養ホームは満杯で、たくさんの方が順番待ちの状態である。底辺にいる人が気軽に入所できる施設がほしい。

自宅で家族が介護できればそれが一番いいが、そういう人ばかりでない。施設に世話になる方も当然おり、今後ますます高齢者が増加するので、施設を必要とする方も当然増加する。今年「長生園」で20床、来年度「しらいわ」で30床、「あしたば」で9床の増床を計画しており、この1・2年で59人が入れるようになるが、介護度4～5の方が70人ぐらい待機者として在宅介護になっているようで、59人分作ってもすぐ満床になる。

国では、一部屋に2ベッドという考えがあり、これを推奨しているが、昔は一部屋4ベッドだった。おっしゃるとおり国民年金の方にとって、2人部屋の施設利用料金は高いので、全国的に一部屋に4人が入れるような施設に見直していく部分も必要で、今後そのように転換されていくと考えられる。転換されれば比較的安い料金で入所できると思う。今の意見のような要望が強くなっているので、厚生労働省ではこれらのニーズに対応し、今後の改築や新築の場合については、そういった配慮も取り入れられると思う。市でもどうしても入らなければいけない方への施設整備について支援していきたい。

【地域福祉】

「寒河江の印象」を聞くと「美しい町」と言われることが多い。自然環境等恵まれていると思うが、これに地域福祉のコミュニティが加われば益々良くなると思う。「寒河江方式」の福祉というものを作ってほしい。審議会の委員にも福祉に篤い思いを持っている人や専門家になってほしい。社協、町会、公民館等が連携し、有料でも公民館などで見てくれる人がいるなど地域とボランティアが協調してやればよいと思う。まず、これらのことをやってみたいと思える雰囲気が必要である。市と市民の間を埋めるように、形だけでなく、実質的なところにメスを入れてもらいたい。今、町会の役員などをやっている人は、負担を感じている。行政で実費負担しても良いのではないか。今回の計画はそういったことも考えた、地に足のついた計画としてほしい。

資料では簡単に絵で描いているが、実際にどうやるかは難しい。いろんな立場から協力をもらい、手伝ってもらってネットワークを作るということも必要だろう。

我々の狙いは、小さな単位でネットワークを作っていくことで、それでないときめ細かな見守りはできない。一気に市全体でネットワーク作りはできないだろうと思うので、モデル的に実験的にやってみていろんなことを試してみて、それから実態に合うものは何かを検証していくことが必要と考えている。

現実に機能しないのでは、何にもならないので、今回も4箇所で見解をもらうが、皆さんの意見を聞きながら、地域に合ったやり方を研究していくことが重要である。

【高齢者福祉、福祉バス、ハートフルセンターの活用】

サロン事業について、社会福祉協議会（社協）と市で実施しているが、どう違うのか区別がつかない。内容が似ている同じような事業については、整理して分かりやすくしていただきたい。一人暮らしの人だけでなく、家族がいても孤立している人もいるし、孤独を感じているいろんな立場の高齢者は多い。気軽に参加できるサロンにしてもらいたい。

福祉バスを通してほしいという意見が多い。今後、高齢者が増えるにつれ運転免許を返上する人が増えると思われる。それで、移動手段がなくなり、不便で負担も大きくなると思う。福祉バス事業を実施してもらえないか。寒河江駅・主なスーパー・病院などを回ってくれる交通機関が必要と考えているのでよろしくお願ひしたい。

ハートフルセンターに運動できる部屋があるが、利用の方法が分からない。どうすればよいのか。気軽に利用できるようにしてほしい。以前行った三川町の同様の施設では、リハビリルームが一番活用されており、専任の男性職員が対応していたようである。気軽に利用できるとよい。

サロンについては、今年度分はそれぞれ決まっているので現状のまま進めることになるが、来年度に向けて調整し違いが理解できるよう分かりやすくしていきたい。運用面でも一人暮らしの方だけでなく、活用していただけるよう検討していく。

福祉バス運行については、これまであちこちでデマンドバスを求める声があり、公共交通機関が通っていない地域に対して福祉バスを走らせる必要があるのではということで2月に需要調査したが、希望する人は2割程度しかいなかった。調査は、必要と思われる人のみを対象にしたもので半分以上が使うという回答を期待したのだが、予想以上に希望者が少ない結果となった。機先をそがれた感じになって、始めてもすぐにやめることになるかもしれないので、バス以外の方法でニーズに対応できないか考えているところである。例えばタクシー券をお配りするとか、他市の例についても調査して、なんらかの形で足の支援を実現するよう担当の方で検討している。本当はやるつもりでいたのだが、調査結果があまりよくなかったので、別な検討に入らざるを得なかった。アンケート結果も報告するつもりだが、結果だけ報告して中身が決まってない、対応が検討中なものでうまく御返事できないでいる。いずれにしても何らかの形で実現したいと考えているので、皆さんからもお知

恵をいただきたい。

ハートフルセンターの活用については、御質問の部屋は、リハビリルームのことと思う。現在、介護予防教室「はーとふる元気アップ教室」で使用しており、健康チェックや筋力トレーニングなどを行っている。この施設の利用については、指導スタッフの関係で予約無しでは利用できないことになっている。教室参加希望者を募集し実施しているので、希望者を紹介していただきたい。

【団塊の世代の活用、子育て支援、市立病院の経営】

福祉に関する人材育成の点では、団塊の世代が大量に退職している時代なのでこれらの退職者をいろいろな形で活用すべきである。

天童市から寒河江に引っ越してきた方が寒河江では子どもの医療費を取ることに驚いていた。天童では子どもの医療費が無料らしいが、安心して子どもを生み育てやすい地域にしていきたい。

市立病院の赤字、1日160万円も赤字だしているのでは、財政的に負担が大きいのではないか。他の行政サービスをやろうとするとパンクしてしまう。健全経営について検討してもらいたい。

団塊の世代が60歳定年で大量退職しているが、これらの方々に限らず退職者は、いろんな知識・技術・ノウハウを持っているので、いろいろと社会に役立ってもらえればと考えている。今後、その方策を考えていきたい。

子どもの医療費については、寒河江市では就学前まで無料としている。天童市は中学生まで無料のようである。来年度の国の施策としての子ども手当がどう支給されるか、10～20億円がどう支給されるのか、国の動向、この制度が今後どうなるか、この状況を見て、寒河江市としての施策を考えていきたい。基本的に市町村によって格差があることは良くないと思っている。

市立病院の赤字の問題であるが、税金を出しながらも赤字になっている部分が累積欠損になっている。民間と違い倒れはしないが、赤字を極力少なくしていく努力が必要である。一般的に公立病院は、医療の中の不採算部門を抱えており、民間病院は不採算部門を請け負わず儲かる部門だけやっている。そのため、ある程度の赤字は市民の税金でまかなっていくのは、やむを得ないと思っている。ある程度はだが。ただ、度を越すといかんというお話かと思うので、医師確保という基本的な問題はあるが、できるだけ健全化して患者さんから信頼される病院に向けて努力しなければならない。そのためには、県立病院や他市町の病院との住み分けや連携も不可欠であり、山大医学部と県、自治体病院が連携していくことで効率的な医師配置へとつながると思う。

今年県からも意見交換の場が出ているので、我々も市民の医療を守る立場で発言していくわけだが、西郡全体の医療をさらに充実していくことが経営に結びついていくとなると思うので、ここはすぐには御理解をいただけないとは思いますが、御理解いただければと思う。